

東日本大会の現状、及び 2025 年度開催に関する報告

2024 年 12 月 4 日

2025 年度北海道支部幹事長 矢挽智也

1. 経緯

東日本大会は、関東支部と北海道大学の交流と北海道支部の活性化支援を目的として開催されてきたものである。かつては関東支部と北海道支部で交互に主幹を担当していた。

しかし 2015 年度関東幹事長より、「北海道主幹時に遠征費や銃器の航空輸送の不安から、参加しない関東支部加盟校が多数あった。これは関東支部全体が共有する問題であるから、今後の開催方針に関して①現状通り主幹交代開催②恒常的に関東開催③大会中止のいずれかにすべきかを決定したい」との申し出があり、2016 年度北海道支部は②の方針に同意したことで、関東支部の恒常開催となった（当時の援助方針等の取り決めに関して、参考資料 1「土橋支部長宛」参考資料 2「東日本大会の今後の開催について」）。

しかし新型コロナウイルスの影響により、両支部それぞれに様々な悪影響が生じたのは、昨年度の北海道支部支部総会にて赤坂幹事長より確認されたことである（このことに関して参考資料 3「東日本大会の現状について」）。

2. 東日本大会の出場者推移

2024 年度は過去数年間で最多の出場者数であった。また、関東支部からの提案により、2024 年度から各校男女混合団体での出場が行われた。

	2017	2018	2019	2022	2023	2024
AR	6	3	4	4	3	6
ARW	3	1	1	1	2	4
AP	0	0	0	0	1	3
SB	0	0	0	1	0	0

※2020,2021 年度は新型コロナウイルスの影響により未実施

3. 2025 年度北海道支部の考える東日本大会のありかた

来年度の東日本大会開催にむけて考えていくにあたり、北海道支部にとってのメリット・デメリットを考え、以下を関東支部に共有した。

【メリット】

- ・電的が撃てる
- ・時期的にインカレの予行演習になる
- ・関東のレベルに触れることで、刺激を受けることができる
- ・ボーダーフリーであるため、遠征経験を積める

【デメリット】

- ・遠征費用
 - ・関東支部との交流がない（大会に出るだけ）
 - ・援助面、企画面全てで関東支部に依拠している部分が多い
 - ・東日本大会が春関や秋関と合同開催されることで、
関東支部にとって大会開催の意義がない
- } 北海道支部の
「お客さん」状態

4. 関東支部の考える方針

今までの経緯、北海道支部の考えを受けての関東支部の提案は、以下のようであった。

- ・交流を再開できたので、ぜひ継続・活発化していきたい
- ・大会開催の意義に関しては、東日本を単独で開催することにした上で、
時期を考えれば「AR 持ちたての新人に試合機会を提供できる」という
メリットを見いだせる。
- ・費用面は心配なくてよい
- ・大会に併せて合宿を行えば、高い遠征費用を払ってくる北海道支部にと
っても大きなメリットになるのでは

5. 上記を踏まえた今年度の方針

2025 年度関東支部幹事長及び副支部長、北海道支部内での話し合いと確認の上、今年度は以下の日程で実施することとした。

【2025 年度東日本大会】

日 時：2025 年 8 月 20 日～8 月 23 日

場 所：栃木県ライフル射撃場

種 目：AR（ファイナルは実施予定）、AP は未確認

SB は開催しない

【関東支部合同練習会】

日 時：2025 年 8 月 24 日

場 所：栃木県ライフル射撃場

人 数：未定

対象者：東日本 AR を持ち始めて経験の浅い者（経験者も歓迎する）

6. 今大会の意義と加盟校・学連員の皆さんへのお願い

今大会は「両支部にとってメリットをもたらす」「交流の機会を作る」「北海道支部のお客さん状態を脱却する」ことを主眼に置いて計画した。

多くの選手に参加してほしい。北海道支部からのエントリーが多くなければ、単独開催した意味が激減してしまう。大会だけではなく初心者を対象とした合同練習も同時に開催される予定である。構成員のほとんどを大学から射撃を始める人で占める北海道支部にとって、関東の高いレベルに接したうえで指導者の下で練習を行うことができる経験は、上達への大きな糧になるだろう。銃の扱いに慣れてきた高学年にとっては技術指導の参考にもなるし、基本に立ち返ることができる貴重な機会でもある。

また、交流の時間を多くとってほしい。遠征費・宿泊費は北海道射手の悩みの種であり、強制することもできない。しかし東日本大会が単独で開催されることになったにも関わらず、「開閉会式に誰も出ない・北海道支部で固まる・大会運営に関わらない」のでは今までと何も変わらない。お客さん状態である（関東支部も、「遠征費がかさんでしまうので難しい問題だが、翌日に練習会も企画されているので閉会式くらいは出てくれば」と仰っていた）。交流を持ったうえで、インカレ等で再会を喜べるということも、遠征の楽しみになるだろう。